

とっとり 土地改良だより



発行
みどり
水土里ネットとっとり
鳥取県土地改良事業団体連合会

〒680-0911 鳥取市千代水四丁目37番地

TEL (0857) 38-9500 FAX (0857) 38-9577

<http://www.totirengonet.or.jp>

印刷所 日ノ丸印刷株式会社



農業・農村フォトコンテスト2023 入選作品
「水鏡」伯耆町

目

| | | | | | |
|----------------------------|----------------|-------|-------|-------|---|
| ○新年のご挨拶 | 鳥取県土地改良事業団体連合会 | 会長 | 榎本 武利 | | 2 |
| | 鳥取県農林水産部農業振興局 | 局長 | 栃本 義博 | | 3 |
| ○新年に当たって | 全国土地改良事業団体連合会 | 会長 | 二階 俊博 | | 4 |
| ○新年のご挨拶 | 財務大臣政務官 | 参議院議員 | 進藤金日子 | | 5 |
| | 全国水土里ネット会長会議顧問 | 参議院議員 | 宮崎 雅夫 | | 6 |
| ○「東部土地改良事業推進協議会」が事業視察研修を実施 | | | | | 7 |
| [シリーズ] | | | | | |
| ○あつまれ、水土里のなかまたち | | | | | 8 |
| ○編集後記 | | | | | 8 |

次



新年のご挨拶

鳥取県土地改良事業団体連合会

会長 榎本 武利



年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられ、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、令和5年8月15日発生した台風7号による線状降水帯が発生し、東部～中部を中心に記録的短時間大雨情報や特別警報が発表される程、未曾有の記録的大雨を降らせました。特に鳥取市、八頭町、三朝町など甚大な災害が発生したため、早期復旧に向け、本会はこれまでにない事務所全員が一丸となって災害応援体制をしき、災害復旧に向けた調査・測量作業や災害査定設計書などの作成に取り組み、12月末には査定作業を終えることができました。この度の災害は、本会が過去に経験したことのない多数の被災数であったため、福井県、鳥根県、広島県、徳島県、大分県、熊本県の各県土連から職員派遣など応援して頂き、大変感謝しているところです。今年は、さらに災害復旧工事に向け、実施設計作業や工事設計書作成、工事監督補助などに、取り組むこととしています。

また、年明け早々、元日に北陸能登半島を中心とした大地震の発生があり、人命救助や被災者への支援が急がれる大変な年明けとなりましたが、本会としても今後できる限り復旧に向け支援をしていきたいと考えているところです。

さて、国は令和6年度通常国会において「食料・農業・農村基本法」の改正を予定しており、その見直しの大きな方向性は、①食料の安全保障の強化②スマート農業の推進③農林水産物・食品の輸出促進④農林水産業のグリーン化を柱に、食料安全保障の抜本的強化や環境と調和のとれた農業への転換、人口減少下における生産水準の維持・発展と地域コミュニティの維持を改正の方向に据えていくこととされています。今回の改正は、農政の憲法といわれる「食料・農業・農村基本法」の大改正となるので、今後の日本の農業を決める改正だと言ってもよいくらいです。関心を思って今後の方向を注視して頂きたいと思えます。

本会は、今後も皆様と共に鳥取県農業の維持発展のために必要な農業農村整備事業の推進に積極的に取り組み、さらには、農業・農村(水・土・里)の役割や大切さを広報していくなど、皆様が抱えている諸課題の解決に向けて、信頼される県内唯一の農業土木プロ集団を目指してまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いするとともに、会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。

会員の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます

鳥取県土地改良事業団体連合会 役職員一同



新年のご挨拶

鳥取県 農林水産部 農業振興局長
栃本 義博



新年あけましておめでとうございます。

皆様には日ごろから農業農村整備事業の推進に当たって、多大なご協力とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、停滞していた社会・経済活動も再び回り始め、農業生産や販売拡大等に向けた各地の動きも活発化してきています。しかし、一方で、7月豪雨、8月の台風第7号と大きな災害に見舞われ、農林業においては過去30年で最大規模となる甚大な被害となりました。さらには、記録的な夏期の高温が農業を直撃し、米の白濁による1等米比率の低下や収量の減少など、農業経営にも大きな影響を与えました。今年の営農に向けて、被災箇所の早期復旧や温暖化に対応した技術対策など、関係者の皆様と一緒に精一杯の取組、検討を進めてまいります。

さて、県では、農業振興の目指すべき姿と目標、実現に向けて取り組むべき事項等を定めた「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」を基本に、各種農業施策の推進をしております。さらに、これまでの「食のみやこ鳥取県」からステージアップした「食パラダイス鳥取県」を目指して、「国内外への販路開拓」、「担い手・後継者の確保」、「生産拡大」を柱として取組を強化してきており、令和6年度当初予算においても、そのための新たな施策を検討しているところです。

農業生産1千億円という目標達成に向けては、担い手の育成・確保、高収益作物の導入やスマート農業の推進などとあわせて、生産基盤となる農地や農業用施設の整備、さらには非農家も含めて地域ぐるみで農地の維持管理をすることで担い手を下支えする応援体制を整えて行くことも重要です。そのような中で、水田の汎用化、大型機械やスマート農機による効率的な営農を実現するための大区画化や農道整備など、農業農村整備事業の役割は大きいと言えますし、日本型直接支払いなどの関連事業も地域の農地を守り、活かしていくためになくてはならないものになっています。令和6年度の農業農村整備事業関係予算は、令和5年度とほぼ同額の4,463億円、令和5年度補正予算と合わせると6,240億円が確保されました。これは、事業効果が着実に発揮されて農業農村の活性化につながってきていること、土地改良関係団体の皆様がしっかりと事業の必要性を国に要請していただいた結果であり、厚くお礼申し上げます。

新しい年に向けて、農業農村整備事業の推進はもちろん、県で取り組む各種施策もしっかり推進しながら、農業生産1千億円の目標達成に向けて、農業・農村が元気になるような取組を全力で進めてまいりますので、引き続き皆様からのご指導、ご協力をお願いいたします。



新年に当たって

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階俊博



令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてもご支援をお願いします。

昨年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第五次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。

男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、全国の皆様が日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます。私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

財務大臣政務官

参議院議員 進 藤 金日子



新年、明けましておめでとうございます。鳥取県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。本年も現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願い致します。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は続き、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下において、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止まりの傾向にあり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情を精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参画しました。昨年末には、検討結果を岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。

私は、従来から我が国の食料供給力(食料自給力)の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要となります。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保に努め、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してまいります。皆様からのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、また、貴連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 宮崎雅夫



元日夕刻に発生した「令和6年能登半島地震」において、尊い命を失われた方々に哀悼の誠を捧げさせていただきます。さらに、被害に遭われ、不自由な避難生活を余儀なくされている皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、速やかな生活環境の確保・回復と、今後進められる農地・農業用施設を含む被害状況の把握や早期復旧に向けて、私も関係機関等と連携しながらしっかりと対応してまいります。

また、本件地震のほかにも、昨今の激甚化、頻発化する気象災害は、昨年も全国各地で風水害や土砂災害等が発生させ、さらに、夏場の高温や渇水など農業用水の安定供給にも影響を及ぼしています。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、早期復興に向け皆様とともに力を合わせて対応してまいります。

さて、辰年を迎え、鳥取県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進、土地改良施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

私も皆様方から多くのご支援をいただきつつ、現場でお聞きした皆様の声を国政の場で発信し、また、たくさんのご要望等に対しても、それぞれの地域事情に即した解決策等に向け、全力で対応してまいったところであり、昨年11月に成立した令和5年度補正予算では、土地改良関係として、昨年度の補正予算から100億円増の1,777億円(食料安全保障強化対策160億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災・国土強靱化対策857億円)を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料高騰分の7割を支援する制度を4月まで延長する対策も含まれています。加えて、12月に閣議決定した令和6年度当初予算案では、前年を上回る4,463億円が計上され、補正と合わせた総額は6,240億円となっております。これから行われる通常国会において早期成立に向け、参院予算委の理事として努力してまいります。

さらに、来る通常国会では、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」を四半世紀ぶりに改正する予定であり、我が国の食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の強化等についてしっかり議論を進め、基本法に位置付けていく必要があります。さらに土地改良が担う重要な役割としての農地や水利施設等の整備・保全管理を含め、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業等の取組推進や農業農村関係人口の拡大など、土地改良区の運営基盤の強化を図っていくことが重要です。

私も、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念に、現場や地域の課題をしっかりと伺いし、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保や制度の充実に向け、鋭意努力してまいります。決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。結びに、鳥取県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様の方々の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

「東部土地改良事業推進協議会」が事業視察研修を実施

11月27日（月）に東部土地改良事業推進協議会が事業視察研修を実施しました。視察先は兵庫県 養父市 能座集落で、東部土地改良事業推進協議会 吉田会長（八頭町長）ほか 27名が参加しました。

まず、能座コミュニティセンターにおいて座学研修を行いました。養父市 東主査から国家戦略特区 養父市の概要について

- ①農業への企業参入は13社であること。そのうち能座集落に進出した「株式会社 Amnak」が一番多くの面積を担っていること。
- ②株式会社 Amnak が能座集落において「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に取り組んだこと。
- ③②により企業・研究機関とつながりができたこと等説明がありました。

続いて、能座集落の高階代表から

- ①平成6年にほ場整備を実施しているが、平成26年には耕作放棄地が増えてしまっていたこと。
- ②平成26年に養父市が中山間農業特区になり、平成27年3月、視察に訪れた「株式会社 Amnak」を受け入れることを決定したこと。
- ③受け入れ側としても「株式会社 Amnak」を集落が全面的にバックアップ（中山間地域等直接支払交付金等補助事業による農地保全、休耕田再生、鳥獣害対策）したこと。
- ④「株式会社 Amnak」に能座集落から4名役員参加していること等説明がありました。

座学研修の最後に「株式会社 Amnak」藤田会長から

- ①36歳の社長体制としたこと。
- ②三本の矢（休耕田ゼロ、定住者呼び込み、作付けしている酒米からできた日本酒を海外へ）の目標設定してすべて実現したこと。
- ③地域、行政と一体となって企業経営していくこと等の説明がありました。

意見交換では「参入企業が取得した農地面積は?」「棚田地域振興法の指定棚田地域は、ほ場整備後の農地でもよかったのか?」「スマート農業で導入した草刈り機についてどうですか?パイプラインは詰まりませんか?」等の質問に答えて頂きました。



藤田会長、高階代表（左から）



座学研修の様子



パイプライン施設の見学



パイプラインの取水口



愛と絆のある農業・農村をめざして
みどり水土里を愛する
なかまたちを順次ご紹介

大山山麓地区土地改良区連合 技師 古都 健汰

皆さま、はじめまして。大山山麓地区土地改良区連合の古都健汰と申します。こちらに勤務させていただいて4年目となりました。私は当連合の技師として下蚊屋ダムやパイプラインの維持管理を主な業務としております。ダムの維持管理は大雨警報の発令時など、天候に左右され突発的な業務などもありマニュアル通りにはいかない対応に四苦八苦しておりますが、諸先輩方に支えていただきながら日々の業務に励んでおります。

一方、プライベートでは2児の父親として子育てに四苦八苦しています。やんちゃ盛りの4歳と2歳の姉弟で毎日のように大騒ぎしておりにぎやかな家になっています。



醍醐桜(岡山県真庭市)

独身の頃からアウトドアが好きで休みの日は釣りや登山、キャンプなどに興じていましたが2児の父となった今、中々これまでのように一人で趣味に没頭するということができなくなってきました。そんな中、私の持つ趣味のひとつが家庭に活かしていることがあります。それは何かと言いますと一眼レフカメラでの写真撮影です。子供が生まれるまでは一人で夜な夜な星を撮影しに出掛けたり、綺麗な景色を探して渓谷を歩き回ったこともあります。桜の写真は岡山県真庭市にある醍醐桜を夜明けに撮影したもので、渓谷は鳥取県三朝町の小鹿渓で撮影したものです。昔はこの様な風景写真ばかり撮っていたのですが、子どもが生まれてからはカメラを持ち出す時はもっぱら子どもの成長記録を撮る時になりました。自然の中を自分の足で歩いてお気に入りの場所を探すアウトドアな写真撮影も好きでしたが、今では可愛い我が子が被写体になってくれる成長記録写真ばかり撮影しています。



小鹿渓(三朝町)

す。おかげで私のスマホやパソコンは子どもたちの写真の膨大なデータで常に圧迫されています。これから運動会や発表会などの行事もどんどん増えていきますので、私の趣味であるカメラの出番もますます増えていくことでしょう。

昨今、ライフワークバランスという言葉をよく耳にするようになりました。子育てに興味に仕事、ありがたいことに私はバランス良く全てが充実しており、楽しい毎日を過ごさせていただいています。皆様もライフワークバランスを意識した生活を心掛けて、公私ともに充実した毎日を過ごしていきましょう。



編集後記

あけましておめでとうございます！

昨年末は災害対応に携わり、初めて尽くしのことばかりの濃い3ヶ月を過ごしました。年が明け、土日平日と気兼ねなく遊べる日常に戻った喜びで、友達の名前で埋まっていくカレンダーを見るのが今の私の小さな幸せです😊本年もよろしくお願いたします！（松村）